

富士見市環境基本計画市民策定委員会（第7回）議事録

- 【開催日時】 平成24年7月18日（水）午前9時30分～11時20分
- 【開催場所】 市役所本庁舎2階市長公室
- 【出席者】 策定委員会委員
澤田副委員長、宮委員、眞木委員、加藤委員、柳田委員、齋木委員、
横山委員、清水委員、矢野委員、関根委員、井上委員、古賀委員
事務局
新井環境課長、大橋副課長、佐々木主査
(株)環境総合研究所
寺山
- 【次第】 1. 開会
2. 副委員長あいさつ
3. 素案について
(長谷川委員長欠席のため、澤田副委員長による議事進行)
4. その他
5. 閉会

【議事要旨】

1. 素案について

【審議内容】

◆第4章「基本方針⑩みんなで力を合わせて行動しよう」～「基本目標⑫みんなで計画を実行し、評価しよう」について

- 委員： P.63 市民人材バンクの登録・利用状況を確認したい。
- 事務局： 昨年度の環境に関する市民人材バンクの利用はない。利用・登録状況は毎年「富士見市の環境」で報告している。
- 委員： 以前は、苛性ソーダを使ったせっけん作りなどは公共施設で行われていた経緯があったが、現在はそのような取り組みはないのか。
- 委員： 市民人材バンク推進委員として報告すると、昨年度の実績は 243 件（約 17,000 人）の利用、登録数 192 件であった。市民人材バンクに期待されることはどんなことか。
- 事務局： 環境に関する登録があれば環境学習機会の増加が期待できると考える。
- 副委員長： 登録への呼びかけはどんなことを行っているか。
- 委員： 事務局で随時登録を受け付けている。年に 1 回登録継続をお願いしている。
- 委員： せっけん作りは評判がいいと思う。この様な詳細な取り組み内容を掲載できれば、事後評価を容易にしたり、家族との話し合いなどの啓発につながると考える。
- 副委員長： 「富士見市の環境」への掲載を考えたい。
- 委員： 保全活動と環境リーダーの育成を結びつける表現を掲載できないか。
- 副委員長： 環境省では ESD（「持続可能な開発のための教育」）活動を推進しており、里地里山活動や商店活性化などを取り組み内容としている。これらを 1 つのツールとして利用できないか。過去に行政で取り組んだ経緯を確認したい。
- 事務局： 過去に ESD 活動について取り組んだ経緯はない。
- 委員： 環境リーダーの育成はどのように取り組んできたか確認したい。
- 事務局： 環境施策推進市民会議において、施策や取り組みの推進、地域への啓発を行っている。市では、ごみの減量化の取り組みの 1 つとして生ごみの水切りを推進し、モニターを募集している。取り組みに積極的に活動する方にリーダーを担っていただきたいと考えている。
- 委員： リーダーについての情報を市民に対しどのように周知しているか。
- 事務局： リーダーの位置づけはまだ確定させていないが、地域活動の中で、環境施策推進市民会議のメンバーなどがリーダー的存在となっていると考えている。また、富士見市クリーンアップ運動の取り組みで市民の参加をお願いしており、環境施策推進市民会議のメンバーにも

- 地域の取り組みとして相談しているところである。
- 委員： 環境施策推進市民会議は規約を改定し、新たな組織として再スタートした。現在は 4 つの地域に分けて活動しているものが特徴である。委員としての自覚のため、参加者への委嘱状交付や謝礼を考えていいと思う。
- 委員： P.60 富士見市クリーンアップ運動の取り組み内容を掲載してはどうか。
- 事務局： 解説の掲載は検討する。ごみゼロ運動の取り組みを市の独自の取り組みとして位置づけ、富士見市クリーンアップ運動と位置づけた。更に「富士見市をきれいにする日」を制定し、啓発を行っている。
- 委員： 関係者としても掲載をお願いしたい。
- 副委員長： 最終的なまとめのときに意見集約したい。
- 委員： P.66 計画の進行管理はどのような組織が行っているのか。
- 事務局： P.86 にあるように、計画の推進組織があり、相互に確認しながら進行管理をおこなうものと考えている。
- 副委員長： 各主体の実践行動を最後にまとめた形で掲載すれば読みやすいと考えるがどうか。
- 委員： 後日、最終的なまとめの中で意見集約すればいいと考える。
- 副委員長： 最終的なまとめの中で意見集約することとしたい。

◆第 5 章「富士見市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」について

- 委員： 二酸化炭素削減が原発の推進に結びつかない表現としていただきたい。市として再生可能エネルギーの推進の具体的内容を掲載できたらいいのではないか。バイオマス発電についてはどのような状況か？
- 事務局： バイオマス発電の推進は計画されていない。P.74 にある削減目標については、7 月 17 日(火)に開催された富士見市環境にやさしい都市づくり検討委員会(以下、「庁内検討委員会」という。)において、無理な目標ではないかとの意見があったため、目標値の見直しを考えている。ご理解いただきたい。具体的には、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(以下、「事務事業編」という。)にある削減目標と整合を図りたいと考えている。事務事業編の平成 22 年度では、平成 16 年度比 13.7%削減の実績値があるが、区域施策編では、富士見市の特性として一般家庭が多いため削減ポテンシャルが低く、人口増加等により削減目標の設定が難しいと考える。
- 委員： 目標値については、市の設定でしっかり検討していただきたい。
- 委員： P.85 熱中症などに関する保健指導マニュアルとあるが、高齢者は忠実に対策に取り組むため、熱中症による症例が増加していると聞く。強く表現することは避けた方がよい。

事務局： 了解した。

委員： P.76 及び P.79 にエコドライブとある。標語的な表現に修正した方が分かりやすい。注釈を掲載したり、順序の整理を行うなど調整をお願いしたい。

事務局： 整理していきたい。

委員： P.79 住宅における取り組みとして、太陽光発電システムや太陽熱温水器システムを導入とあるが、市としての詳細な取り組み内容を掲載してはどうか。

事務局： 一般家庭等での自主的な取り組みとして表現している。

委員： 計画期間の 10 年間で見直しや PR 紙などの配布を考えているのか。少なくとも 1 回は見直しをするものと考えている。

事務局： P.77 ごはんは保温せずに・・・とあるが、電子レンジの方が電力消費が大きくないか。また、今の給湯器は種火がないと思うが。

事務局： 大目に炊いて冷凍保存し、必要分だけを電子レンジで加温する方が、毎回適量を炊くよりも電力消費が少ないと認識している。種火については確認する。

委員： 冷蔵庫の冷蔵による電力消費も含まれるので、「その都度炊きましょう」などの表現がより電力消費を抑えた表現になるのではないか。

事務局： 表現を検討する。

◆第 6 章「計画の推進体制・進捗管理」について

委員： 計画の進行管理は庁内検討委員会が行うような表現に見える。

事務局： 計画の実行については、市民・事業者・行政が協働で行い、環境施策推進市民会議が取り組みの調整役を担う。毎年作成する「富士見市の環境」を作成した際は、各会議に報告を行うとともに、意見を伺い次年度の施策に反映させている。

委員： 現行計画の推進体制と進行管理の図を統一すれば分かりやすいと考えるが。

事務局： 現行計画の図を参考に修正する。

委員： 環境基本計画市民策定委員会は本文中に掲載されないのか。

事務局： 第 6 章は推進体制であるため、掲載していない。

委員： 現行計画では、策定された経緯が省略されている。その経緯を確認したい。市民・事業者・行政協働の取り組みとして行った策定の経緯を掲載した方がいいと考える。

委員： 現行計画では資料編 P.48 に掲載されている。後段で掲載されているのが適当ではないか。

委員： 資料編を読まない前提で考えると、触りだけでも本編に掲載した方がいいと考える。

委員： 第 1 章での掲載はどうか。

副委員長： 事務局で修正案の検討をお願いします。

2. その他

前回委員会(第6回市民策定委員会)での質疑についての回答(事務局)。

【委員質疑】

・ビオトープについての表現

現在、勝瀬小学校にはビオトープが残っているが、表現の修正を考える。針ヶ谷小学校は水道水を流入している程度の管理であり、南畑小学校には残っていない。

・多自然型工法の実績

市として行った事業はない。

・生ごみの堆肥を農業に提供・利用できるのか？

安定的にとの表現は修正する必要があるが、市内の事業者から一次発酵のものを供給していただくことは可能である。特定の農作物の肥料として使うのではなく、土壌改良としての利用であれば可能であるとのことである。

・自転車の安全性・利便性向上を図る対策について

対策については、駐輪場の整備が考えられる。自転車の積極的な利用についての具体例とはいえないが、昨年度、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市及び三芳町の6市1町による地域の魅力再発見の取り組みとして、本市も負担金を拠出し、「みどころマップ」を作成・配布した。併せて、その中の見所を4箇所以上回った人が応募した場合、抽選で特産品が当たる企画を実施した。

次回委員会の日程 平成24年8月8日(水)9時30分～

現在まで審議された内容を踏まえた修正案を提示する。

以上